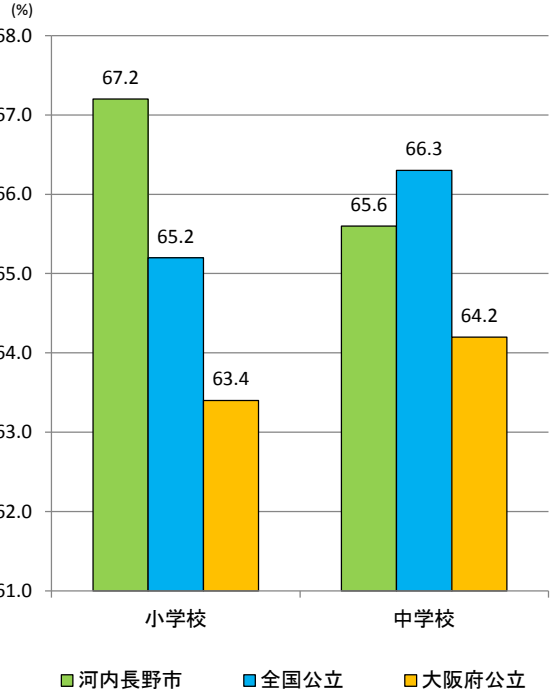


平成31年度 全国学力・学習状況調査結果考察【概要版】

河内長野市立小中学校の平均正答率について

小学校：対大阪府平均+3.8 対全国平均+2.0
中学校：対大阪府平均+1.4 対全国平均-0.7

平成31年度全国学力・学習状況調査正答率



小学校正答率	河内長野	対府差	対国差	府公立	全国公立
国語	66.1	5.8	2.3	60.3	63.8
算数	68.3	1.9	1.7	66.4	66.6
平均正答率	67.2	3.8	2.0	63.4	65.2

中学校正答率	河内長野	対府差	対国差	府公立	全国公立
国語	71.0	1.0	-1.8	70.0	72.8
数学	60.1	1.8	0.3	58.3	59.8
平均正答率	65.6	1.4	-0.7	64.2	66.3
英語	56.0	0	0	56.0	56.0

青字：全国平均を上回っている
小学校国語、小学校算数、小学校全領域
中学校数学
赤字：大阪府平均を下回っている
該当なし

＜本市の取組み＞

- ・日々の授業の中で「言語能力の育成」を図る場面を設定する
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組む

【平成31年度 全国学力・学習状況調査から確認できる成果】
☆主体的・対話的な学びのある授業への改善
☆学校・家庭・地域が連携して児童生徒の力を伸ばす環境の整備

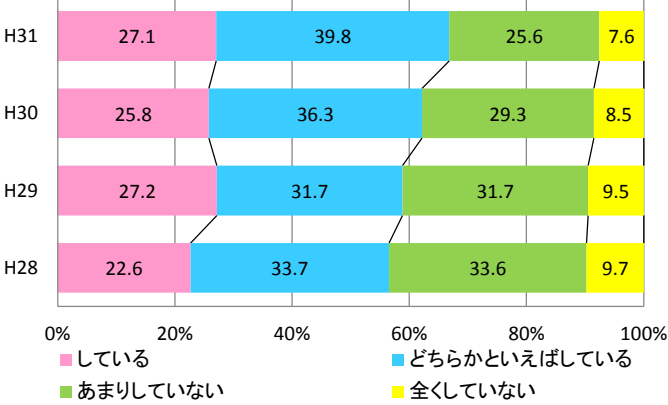
【平成31年度 全国学力・学習状況調査から明らかになった課題】
▲目的や意図に応じて、自分の考えを書くこと
▲各教科の見方・考え方にもとづいて、書いて説明すること

＜課題解決に向けた今後の取組み＞

- ☆主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
①意欲・主体性を持たせる課題設定
②自分の意見を正確に伝える場面の設定・指導の充実
③自分の考えをまとめる学習の振り返り
- ☆教科横断的な取組み
⇒国語で取得した力を他の教科で活用
⇒全教科で自分の考え・意見をまとめる場面を設定

＜家庭学習に関する児童質問事項＞

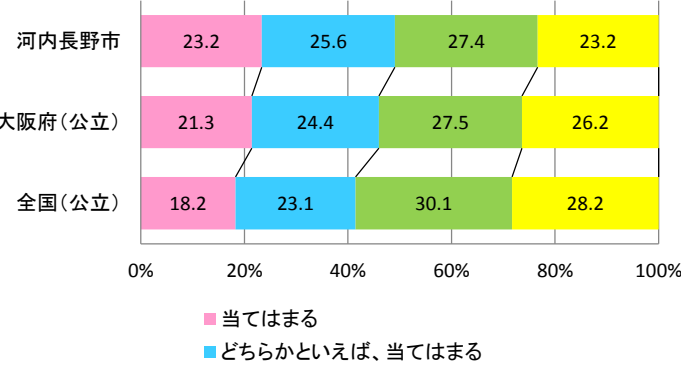
(小学校)家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



家で、自分で計画を立てて勉強している割合が、平成28年度から平成31年度の4年間で改善傾向が見られ、学校だけでなく、家庭での学習習慣が身に付いている児童が増えている。

＜英語に関する生徒質問事項＞

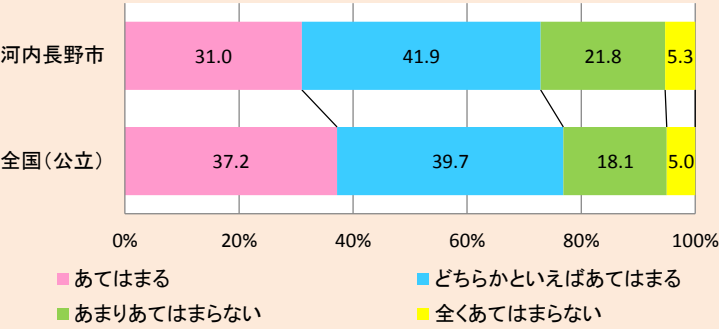
(中学校)
あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。



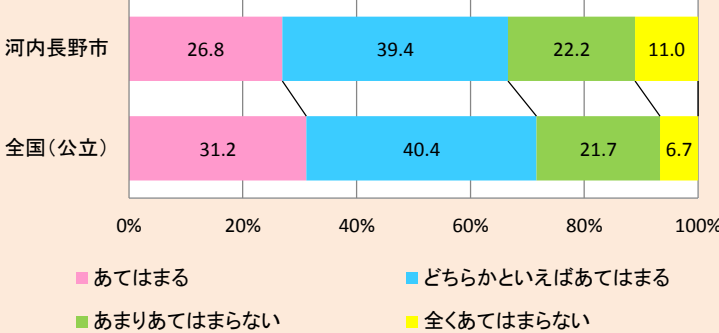
将来、英語を使うような生活をしたり職業に就いたりと思う児童が、全国や大阪府に比べて多く、英語を使うことに対して意欲的な生徒の割合が高い。

＜学校での授業についての児童・生徒質問事項＞

(小学校)
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。

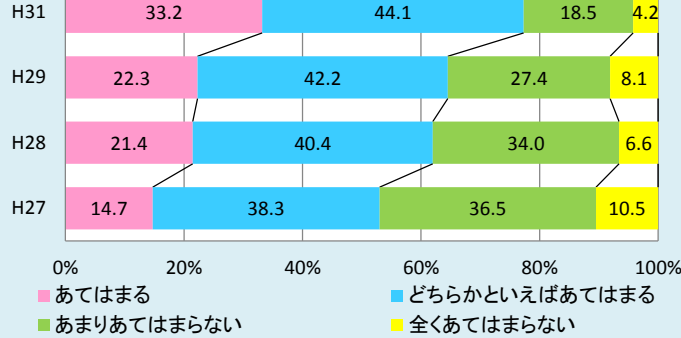


(中学校)
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。

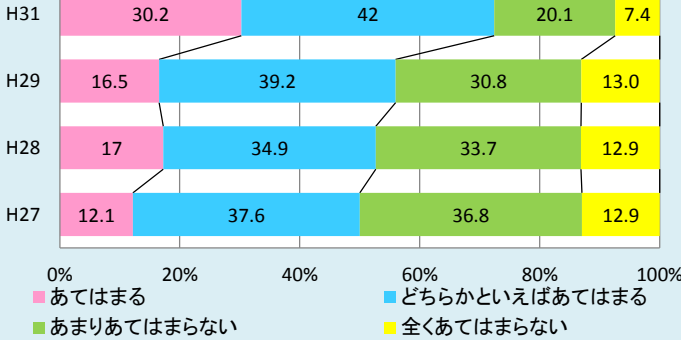


国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしているかを問う項目では、小学校と中学校で共に、全国と比べて、少なかった。
今後は、国語で取得した力を他の教科の学習等で活用する場面を設定することが課題である。

(小学校)
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。

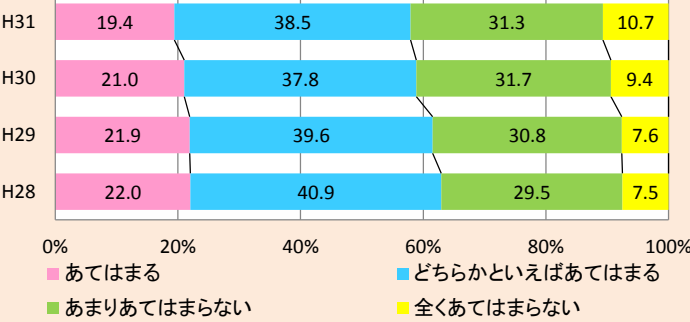


(中学校)
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。

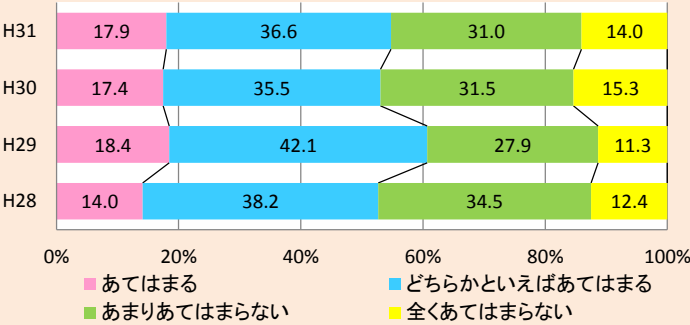


国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているかを問う項目では、調査を開始してから小学校と中学校で共に改善傾向が続いている。
授業で言語活動を多く取り入れる等、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進められた成果である。

(小学校)
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思いますか。



(中学校)
1.2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思いますか。



授業中、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたかを問う項目では、小学校と中学校で共に大きな変化が見られない。
今後は、自分の考えが伝わるよう工夫して発表する場면을授業の中で設定し、質の高い言語活動を行っていくことが課題である。